ハンドマイク街頭演説原稿例　終戦記念日にあたって

二〇二四年八月十一日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、八月十五日は、七十九回目の「終戦の日」です。日本が行ったアジア・太平洋戦争により、二千万人を超すアジアの人々と、三百十万人以上の日本国民が犠牲となりました。戦争の犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の悲劇を二度と繰り返さないため、日本共産党は平和を求める国民のみなさんと力を合わせてがんばります。

　先の戦争の反省に立ち、「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」して作られたのが、現在の日本国憲法です。九条第一項で戦争を放棄し、第二項では陸海空軍などの戦力を持たないことと、国の戦争する権利を認めないことを規定しています。また、戦前は不十分だった人権についても、三十カ条にわたって、きわめて豊かで先駆的な人権規定が盛り込まれています。世界に誇る日本国憲法を生かした日本を、ご一緒につくっていこうではありませんか。

　ところでみなさん、今年は広島と長崎が原子爆弾で被爆してから七十九年目でもあります。今年の広島市での平和記念式典で広島市長は、来年３月に開かれる核兵器禁止条約の第３回締約国会議にオブザーバー参加し、一刻も早く日本も締約国になってほしいと求めました。長崎市での記念式典でも、長崎市長が一刻も早く核兵器禁止条約に署名・批准するよう、政府に求めました。

　核兵器禁止条約は、アメリカなどの核保有国は参加していませんが、世界九十三カ国が署名し、七十カ国が国内手続を終えて批准しています。核兵器をはっきり「悪」と断罪し、使うことも作ることも禁止し、核兵器を使ったおどしも禁止しています。ロシアをめぐって、今アメリカやＮＡＴＯは核兵器を使う準備をしていません。これは、核兵器禁止条約が成立したことで、核兵器の使用は許されないというルールが世界で強まっていることのあらわれではないでしょうか。世界で唯一の戦争被爆国である日本が条約に加われば、世界の核廃絶に大きな力を果たすことは間違いありません。日本共産党も、日本が核兵器禁止条約に参加することを強く求め、実現のために全力で頑張る決意です。

　ところが岸田総理は、式典などで「核兵器のない世界」と発言したものの、核兵器禁止条約については一言も触れませんでした。それどころか、日本政府はアメリカの核抑止政策、核兵器にたよる政策を支持し、支える立場に立っています。核廃絶を願う被爆者や多くの国民の思いに背を向ける、こんな政権を一日も早く終わらせ、核廃絶と世界平和の実現に力を尽くす新しい政治を実現しましょう。日本共産党へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

　自民党の裏金問題を最初に取り上げた、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）